



北海道の グランドデザインを みんなで考える作業の年

(財)北海道開発協会会長 小林 好宏

2007年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

わが国経済は、昨年11月には戦後最長の「いざなぎ景気」を越すなど、緩やかな拡大を続けており、今後も緩やかながら引き続き回復基調を続けていくものと見込まれています。

昨年は、衝撃的な北朝鮮の地下核実験や治安が悪化する出口の見えないイラク情勢、依然途絶えることのないいじめや虐待事件、北方領土海域での漁船銃撃拿捕事件や佐呂間町竜巻被害など暗いニュースの相次ぐなかで、トリノ冬季五輪フィギュア女子での日本初の金メダル、札幌移転3年目の北海道日本ハム44年ぶりの日本シリーズ優勝、駒沢大学苫小牧高等学校夏の甲子園決勝再試合の息詰まる健闘など、私たちを感動させ力づけてくれる話題も多かったように思います。また、道内では、石狩湾、苫東への関連企業の進出やトヨタ第5工場着工など自動車産業の集積、外国人観光入込客数の増加、東南アジア・中国への農水産物の輸出拡大、地域コンピューター航空新会社の就航、団塊世代の移住促進に向けた本格的な取り組みなど、地域活性化への動きが目立ちます。

年末には、豊かで安心な日本を後世代に引き継ぐための三つの優先課題—①成長力・競争力の強化、②財政健全化、③安心・安全の確保と柔軟で多様な社会の実現を重点とする平成19年度政府予算案が編成されました。

北海道開発予算については、本年度が第6期計画の目標年次であることを踏まえ、比較優位にある食料・食品、観光等の産業分野における国際競争力の強化、自然環境の保全・次世代への継承など北海道の成長力・競争力強化を支援する施策と

ともに、多様な自然災害の発生に備える防災・減災対策や豊かな生活環境の創造など安全・安心に暮らせる地域の実現を図る施策に必要な予算が組まれています。

昨年9月には国土審議会北海道開発分科会基本政策部会が、「第6期計画の点検と新たな計画のあり方」中間とりまとめを公表、パブリックコメントを募集するなど、次期計画策定に向けた作業が本格化しています。この中では、グローバル化、自然環境・エネルギー問題、人口減少・少子高齢化という時代の潮流・諸課題に対応し、北海道の優れた資源・特性を活かし、新たな時代を切り開くフロントランナーとして、多様な主体による、多くの分野にわたる広範な取り組みを、新たな北海道イニシアティブとして積極的に発揮し、21世紀の豊かで活力ある地域社会の先駆的モデルを形づくるべきであるとうたっています。

当協会におきましても、こうした北海道の新しい計画策定の動きを踏まえ、北海道開発の意義と重要性を広く社会にアピールする役割を果たし、地域の皆様とともに、豊かで活力ある北海道を実現するために、一緒になって考え、行動する組織でありたいと思っています。

本年は、北海道を真の意味で人と自然に優しい、豊かさや活力のある希望の大地とするためのビジョン—グランドデザインをみんなで考え、共有化していくための大事な作業の年です。

北海道とそこに暮らすすべての皆様にとって、本年が希望に満ちた新たな飛躍の年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭挨拶

北海道開発局 本多 満

明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、我が国の景気拡大が「いざなぎ景気」の期間を超え戦後最長となる中であって、北海道は、全国で最も低調な景況判断となっており、なお厳しい状況が続きました。

こうした中、駒大苫小牧高校が夏の甲子園大会において3年連続して決勝戦へ進出し、大接戦の末、惜しくも3連覇は逃したものの見事に準優勝を飾り、また北海道へ移転してわずか3年目である北海道日本ハムファイターズが44年ぶりに日本一に輝くなど、道民に自信と勇気を与える出来事もありました。

また、全国的に人気を集める旭山動物園は、夏期開園中の入園者数が過去最高の231万人を記録し、一昨年に我が国3番目となる世界自然遺産として登録された知床地域と並び、好調な北海道観光をけん引しました。さらに、7月の北海道における日中韓観光大臣会合では、「日中韓三国間の観光交流と協力の強化に関する北海道宣言」が採択され、今後、三国間、また域外から三国への観光交流の拡大を含む国際観光、国内観光の振興が大いに期待されているところです。この他、産業面では、本州の銘柄米に負けない米づくりが進んだり、農水産品が海外に輸出されたりするなど、新たな成長の芽の動きもでてきており、大いに期待しているところです。

一方で、夕張市が巨額の赤字を抱え財政破綻するといった出来事や平成の大合併により道内市町村数が212から180となるなど、道内自治体にとって厳しい時代の幕開けとなりました。さらに、昨年後半は自然災害が多発しました。8月の前線による大雨では日高地方などで浸水被害が発生し、10月上旬の低気圧による暴風と大雨では、網走支庁管内で総雨量が10月の月間平均雨量の3倍を超え、各地に大きな被害をもたらしました。さらに11月7日に佐呂間町で発生した竜巻災害では、9名の方が亡くなられ、29名の方が負傷されるとい

う大きな被害が発生するなど、災害の多い年でもありました。改めて、自然災害に対する防災・減災対策の重要性を痛感いたしました。北海道開発局としては、国民・道民の安全・安心を確保するため、より一層各種防災対策の充実・強化に努めて参ります。

本年は、第6期北海道総合開発計画の最終年度を迎えることから、その効果的な推進を図るとともに、計画の仕上げに向け、より一層事業の効果的・効率的な実施が必要と考えています。現在、国土審議会北海道開発分科会において、「第6期計画の点検と新たな計画の在り方」についての検討が進められていますが、昨年、その中間とりまとめについてパブリックコメントが行われ道内外から千件を超える意見が寄せられました。今後は、提出していただいた意見も踏まえ、来月にも最終報告を取りまとめることとされています。

北海道が我が国の課題解決に寄与し、持続的発展に貢献していくためには、地域に密着し、変化に柔軟に対応するきめ細かな開発行政が重要です。そのためには、様々な機会を通じ地域の声を聴き、地域における関係機関との連携・協力を進め、さらには地域間の連携、ハード・ソフトの連携など、幅広く多様な形で「複合連携」を推進していく必要があると考えています。

昨年末の「道州制特別区域における広域行政の推進に関する法律」の成立を受け、今後、当局が所管する3つの事業が平成22年度に北海道に移譲されることとなるため、円滑な委譲に向けて具体的な検討を進めていきたいと考えております。

また、総人件費改革の実施にあたっては、各種の方策をもって事業の実施や災害等の危機管理対応に支障が生じないように努め、引き続き国民・道民から負託された使命を適切に果たしていきたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

最後に、皆様のご健康と益々のご活躍をご祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。



年頭所感

北海道知事 高橋 はるみ

新年明けましておめでとうございます。本年も、道民の皆様とともに新しい年を迎えることができましたことを、心から嬉しく思います。

お陰をもちまして、道政を担当させていただいてから、4度目の新年を迎えました。この間、皆様には、さまざまな形で深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、今年の北海道を振り返りますと、道民球団である北海道日本ハムファイターズが日本一の偉業を成し遂げたほか、夏の甲子園で球史に残る決勝戦を戦った駒大苫小牧高校の活躍、世界中の子どもたちに夢を与えた「世界少年野球大会北海道大会」の開催など、道民みんなが、「野球」に元気づけられ、たくさんの夢と希望を与えられた一年であったと思います。

また、道政に目を向けると、これまで推進してきたさまざまな取組や道民の皆様のご果敢な挑戦を通じ、自動車産業の集積や創薬拠点の形成など「ものづくり産業」の胎動、旭山動物園への来園や豪州からのスキ-滞在をはじめとした観光入込客数の増加、道産農水産物の輸出拡大やスイーツ人気に見られるような、新たな北海道ブランドの確立など、北海道の明日につながる「活性化の芽」が、昨年もとぎれることなく芽吹き続けていると実感しています。

我が国が戦後最長の景気回復を続けている中、北海道の景気も、持ち直しの動きが見られつつありますが、本道経済はまだまだ厳しい状況にあります。しかし、私は、「ピンチは変革のための最大のチャンス」であると信じています。道内各地域におけるさまざまな活性化の芽吹きは、今がその「変革の時」を迎えている証しです。

豊かな大地、清浄な水や空気といった、わたしたちのくらしと産業の源泉である素晴らしい自然環境、道内の多様な地域文化の中で育まれた、バイタリティーに溢れる「人財」など、本道が世界に誇る財産を大いに活かしながら、この「時」を逸することなく、経済や地域社会、行財政の構造を変革し、地域それぞれの個性が輝く、夢いっぱいの北海道を築くため、挑戦を続けていかなければなりません。

残された任期、道内それぞれの地域で、夢に向かって情熱を傾けておられる道民の皆様と、共に知恵を絞り合いながら、たゆまぬ努力を惜しむことなく、新生北海道を築くため、全力を尽くしてまいります。

本年が、輝かしい希望に満ちた、北海道変革の年となりますよう、心から願いを込めて、新年のご挨拶とさせていただきます。